

群馬県立特別支援学校 学校評価一覧表(令和7年度版)

(様式)

| 羅 針 盤 | | | 方 策 | 点検・評価 | | 達成度 | 達成状況の分析 | 学校関係者評価 | 次年度の課題 |
|-------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-----|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価対象 | 評価項目 | 具体的数値項目 | | 自己評価 | 外部アンケート等 | | | | |
| I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。 | 1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。 | ① 学校からの通信等で情報を発信し、保護者の85%以上が「学校の様子や生活がよく分かる」と感じている。 | 教務部 各学部 | ○ 学校だより、学年通信等で児童生徒の活躍の様子をWebページでの掲載等も活用して、速やかに伝える。 ○ 学校のWebページを随時更新し、学習の様子をタイムリに伝える。 ○ 送迎時や電話等で、児童生徒の様子について積極的に情報交換をする。 | A | A | A | ・ 日常的に保護者との情報交換を丁寧に行い、各種だより等で児童生徒の様子を速やかに伝えることができた。 ・ 地域の方へは、市役所での喫茶サービスや販会、また、地域行事への児童生徒の参加を通して、本校の教育活動について知っていただくことができた。 ・ 特別支援学校に対する地域住民の理解が以前より深まっている。地域の人の差が少なくなってきた。 ・ 地域の行事にも積極的に参加している様子がわかった。地元としても協力できることがあればいきたい。 ・ 各種だよりについて、メールで配信されてWebページで閲覧するものがあるが、紙で配付してもらった方が有り難い。ログインができないこともあり、読むタイミングを逸してしまうことも多く、読みにくい。他の保護者も同様に感じていると思う。ペーパーレスの時代になってきているとは承知しているが、検討してもらえるとよい。 | ・ 地域での活動をさらに充実させ、地域に根ざした学校づくりを進めていく。 |
| | | ② 各種交流及び共同学習について、保護者の85%以上が有効であると感じている。 | 各学部 交流部 | ○ 居住地域交流では担当者間の打ち合わせや保護者への説明を丁寧に行い、活動内容の改善・充実を図る。 ○ 各種交流及び共同学習の内容や方法の見直しや検討を行い、計画的・組織的に実施する。 | A | A | A | ・ 相手校との連絡調整を丁寧に行い、互いの児童生徒にとって有意義な活動となるように計画、実施することができた。 ・ 各交流において、相手校の児童生徒が本校の児童生徒に寄り添ってコミュニケーションを取る場面も多く見られ、よい活動ができた。 | ・ 地域の小中学校や高等学校との交流の充実を図るよう、連携を強化して計画する。 |
| II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。 | 3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。 | ③ 地域のこども園や小中学校等への電話・メール相談、来校相談、訪問相談を年間150件以上実施している。 | 地域連携部 | ○ 相談支援センターの広報紙や小中学校学校参観の案内を地域の教育福祉施設・機関に配付し周知する。 ○ 自校や地域の教職員を対象とした相談や講演会等を実施し、特別支援教育に関する専門性の向上を図る。 | B | | B | ・ 今年度は知能検査依頼を受けなかったため、件数は、昨年度に比べると少なかった。 ・ 新任特別支援学級担任からの相談依頼や通常学級担任の特別支援教育啓発のための講義依頼などがあり、地域のセンター的な役割を果たせた。 | ・ 障害のある幼児児童生徒の理解や専門性の向上につながる講話や研修会を実施する。 |
| | | ④ すべての教員が必要に応じてタブレット端末などのICT機器を活用し、児童生徒の学習指導を行うことができる。 | 各学部 教務部 研修部 | ○ ICT機器の有効活用や情報セキュリティに関する研修を行い、指導力の向上を図る。 ○ 実態に応じて児童生徒にタブレット端末の基本的な操作を指導するとともに、情報活用能力や情報モラルを育成する。 | A | A | A | ・ 校内で情報セキュリティ研修を実施し、セキュリティの基礎と学校現場における対策について、全教職員で確認した。 ・ 有効なアプリケーションの情報を共有し、学習効果を高めることができた。 | ・ ICT機器の有効活用に関する研修をしたり、教員間で情報共有を図る機会を設けたりして、指導力を高める。また、児童生徒のICT活用も積極的に進めていく。 |
| III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。 | 4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。 | ⑤ 「個別の指導計画」に基づいた教員の支援・指導について、保護者の85%以上が満足している。 | 各学部 | ○ ラーニングマップやアセスメント表を活用して適切なアセスメントを行い、指導計画を作成するとともに、達成状況の評価や改善策の検討を学部内で行う。 ○ 保護者に目標や手立て、評価を分かりやすく具体的に説明する。 | A | A | A | ・ 学期ごとの目標設定や手立てについて、達成状況を保護者と確認しながら情報を共有し、次学期の指導・支援につなげることができた。 | ・ 個に応じた適切な目標や手立て、評価の仕方について、研修を通して理解を深めたり、学部内で検討したりする機会を設ける。 |
| | | ⑥ 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。 | 各学部 保健部 | ○ 連絡帳、個別面談、電話連絡等において、児童生徒の健康や生活について十分な情報交換を行い、協力して実施する。 ○ 保健だよりや学校保健委員会、保健室前の掲示等を通して、健康管理についての情報を共有し、意識を高める。 | A | A | A | ・ 児童生徒の健康や生活について、保護者と情報交換を行い、協力して取り組むことができた。 ・ 学校保健委員会の資料や保健だよりを保護者へ配付し、情報共有を図ることができた。 | ・ 生活習慣や健康について、児童生徒がもつ課題を明らかにし、保健だよりや学校保健委員会で取り上げる。また、家庭と連携しながら、一人一人の児童生徒に丁寧に対応していく。 |
| IV 健康や安全の確保に努めていますか。 | 7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。 | ⑦ 全職員が「危機対応マニュアル」を理解し、避難訓練を年3回、緊急時引き渡し訓練を年1回、緊急搬送訓練(個別)を実施する。 | 危機管理部 各学部 保健部 | ○ 「危機対応マニュアル」を周知徹底し、迅速かつ的確な対応ができるようにする。 ○ 児童生徒への事前予告などの訓練や教職員の欠員がある場合での訓練等を行い、課題を見出して、臨機応変に対応できる体制を整える。 | A | A | A | ・ 実際の災害時を想定し、準備や対応を具体的に考えながら火災、地震、不審者対応の訓練を実施することができた。 ・ 医療的ケアが必要な児童生徒の緊急搬送訓練を各学部(1~3回)、各学級(毎月)で実施し、緊急時の備えや体制を整えた。 | ・ 医療的ケアが必要な児童生徒の緊急搬送訓練を繰り返し実施して、全教職員の意識を高めていく。 ・ 実際の災害時における様々な事態を想定して、訓練を実施する。備蓄品や帰宅困難者が生じた際に必要な物資を再確認し、準備する。 |
| | | ⑧ 教員の85%以上が、キャリア教育の視点を意識し、将来の積極的な社会参加に向けて、児童生徒のもてる力を伸ばす支援・指導を実践している。 | 各学部 移行支援部 | ○ キャリア教育全体計画のもと、基礎的・汎用的能力の育成に学習活動全体を通して取り組む。 ○ 職業教育に関する研修会を行い、キャリア教育に係る教職員の理解を深める。 | A | A | A | ・ 各学部におけるキャリア教育の視点を踏まえた「進路だより」を発行した。 ・ 学校は、児童生徒の発達段階を踏まえて、社会生活に必要な力、社会参加に向けた態度などを育てる支援・指導ができていると、保護者の80%以上の回答が得られた。 | ・ キャリア教育の視点を意識して指導内容を整理し、小学部、中学部、高等部へと続く、系統的な支援を行っていく。 |
| V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。 | 9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。 | ⑨ 個別面談や進路だより、研修会等の学校から提供される資料や情報が有効であると保護者の85%以上が感じている。 | 移行支援部 | ○ 企業関係者から得た情報や助言、卒業生・保護者の体験等を進路だよりで積極的に発信する。 ○ PTA施設見学会やPTA進路講演会を通して、卒業後の進路の選択肢について情報を発信する。 | A | A | A | ・ PTA施設見学会やPTA進路講演会を実施し、卒業後の進路の選択肢について、情報提供ができた。 ・ 研修や講演会など、小中学校の保護者の参加者が増え、高等部卒業後の進路について考える機会となった。 | ・ 障害者年金の利用について、在学中に知る機会があるとうい。福祉課の担当に要請すれば説明に行くので、そのような機会を継続的にもとてよい。 ・ 小中学校の保護者にも積極的に参加を促し、情報提供の機会を多く作るとうい。興味・関心をもつことができる企画を立案する。 |